

国際ロータリー第2660地区

ガバナー

大谷 透



ジョン・ケニーRI会長は国際ロータリーが掲げた「ポリオの撲滅」をはじめとする7つの優先項目からなる長期計画を実行に移すには、マハトマ・ガンジーの「未来は、私たちが現在なすことによって決まる」という言葉を重く受けとめ、今年度のテーマを「**ロータリーの未来はあなたの手の中に**」とされました。

7つの項目は次の通りです。

- ①ポリオの撲滅
- ②ロータリーの公共イメージを高める
- ③奉仕能力の増大(ロータリー財団に協力)
- ④会員組織の増強
- ⑤職業倫理を高く保つ
- ⑥リーダーシップ
- ⑦組織としての持続性(効果的継承)

そしてケニー会長は、我々ロータリアン一人ひとりに力強く語りかけ、責任の自覚を促すのです。「ロータリーの未来はエバンストンにあるRI本部で形づくられるのではなく、個々のロータリー・クラブによって形成されるのです。ロータリーの針路を決めるのは、私たち自身の日頃の行動であります。ロータリーが繁栄するか低迷するか、その影響が多くの人々に及ぶのか及ばないのか、その名が敬意とともに広まっていくか過去の遺物として忘れ去られるかは、すべて皆さん次第です。ロータリーをどうするか、皆さんのものであるということが出来ます。『ロータリーの未来はあなたの手の中に』あるのです。」

ジョン・ケニー会長はテーマ決定の理由をこのように説明し、世界中のロータリアン一人ひとりが、ロータリーの中核をなす価値観(core value)をしっかりと身につけることを奨励しています。

従って第2660地区に於いても、一人ひとりのロータリアンがしっかりとロータリーの中核をなす価値観を身につける必要を感じ、地区のテ

マを「**ロータリーを身につけよう**」としました。

ロータリーの中核をなす価値観とは言うまでもなく「奉仕」、「交友」、「誠実さ」、「高潔さ」、「多様性」、「寛容」、「リーダーシップ」であります。

前年度、横山直前ガバナーは現在多くのクラブが抱えている問題の3K「高コスト、高齢化、硬直化」への対策を考えて、変革できるものは変革する勇気を持つと、「Change」を強く訴えられました。それと共に「職業倫理を高く保つこと」と「広報活動」を地区の長期計画となさいました。

次年度も活動として求められるものは全く同じです。Negative志向の3Kを反省した上で、positiveに6つのKを考えました。

・第一のKは「交友」です。「交友」は20世紀初頭の、砂漠のような世相の中で、ポール・ハリスが求めたものでした。即ち、交友(友情)はロータリーが創設された理由そのものであり、Rolling Twentyの大恐慌をも乗り越えて、成長を続けてきたロータリーの創設期と同様に、今日の世界的な不況下に於いても当時と変る事なく、重要な意義を持ち続けています。楽しく遊ぶだけの友達ではなく、自分が困ったときにこそ、心から頼りにして相談できるような友達が、自分のクラブに居るだろうか吟味してみてください。自分が苦境に直面したとき、退会してゆくロータリーではなく、励ましあい、力になってくれる友がいるので、退会したくないロータリー。そういった意味での交友関係において魅力あるグループ作りであります。

・第二のKは「高潔さ」のKです。ロータリーが誕生した20世紀初頭は、「儲けのためなら手段を選ばず」といった利己主義者たちが、跳梁跋扈する社会でした。儲けのためなら少々うそや誇張には目を瞑って、というのが世間の常識でした。そのような時代に、ロータリーの創

始者達は、勇気と信念を持って敢然と職業倫理と取り組んだのです。リーダーに求められる資質の中で最も大切なものです。

・第三のKは「国際的な感覚」のKです。国際的な組織であるロータリーの国際的な活動に関心を持つことです。マザーテレサは言いました。「愛情の反対は憎悪ではなくて、無関心」なのです。いまや地球は小さくなり、未来を見据える時、国際的な感覚はあらゆる面で重要です。Act locally, think globally!

・第四のKは「九牛一毛」です。これは司馬遷が皇帝の逆鱗に触れ、誅殺されようとした時に、使用した言葉です。私など皇帝にとっては九牛の一毛ほどの小さなものですが、その一毛を大事に思う意識が大切なのですよ、と反語的に用いた言葉です。

自分は世界中のロータリアン120万人のうちの一人であるから、自分一人が頑張ったところで、ロータリーの評価には何の影響もないとは決して思わないで下さい。九牛一毛には、小さな一つを大切に思う心が重要だという意味がこめられているのです。公共イメージのアップは先ずあなたからなのです。小さな愛の行いが、多く集まれば、明るい社会を作るのです。あだに過ぎすつかの間も、わが人生の一節なのです。小さな罪を見過ごせば、滅びにいたる大罪へと発展するのです。100ドル出すロータリアンが百万人いれば1億ドルとなるのです。

・第五のKは「子供」のKです。子供は宝であり、未来です。青少年奉仕は、その部門で働くロータリアンだけの問題ではありません。子供は大人の背中をみえています。子供は親や教師のいう通りにはなりません。子供は大人のする通りになっていくものです。子供が大切だと思うなら、後からついて来る子供のことを思い、高潔な道を歩まなければなりません。

・最後のKは「綱領」のKです。綱領を自分のものとして身につける。そのために各クラブが全員で唱和するに適した夫々のクラブの目標を作って、それを第一例会に於いて、全員で唱和する。

これが今年度の具体的な目標です。

各クラブが、全員で唱和するのに適した夫々のクラブ目標を作って、第一例会に全員で唱和する。私の提案理由は以下の6つです。

- ①新入会員の研修に役立ちます。
- ②使命は連帯感を持ちながら幾度も再確認することが大切です。
- ③現在の綱領の文章は多人数が一つ心になって唱和するのに適した文章とはいえません。
- ④手続き要覧には英語版が正文となるとあり、訳文は正確でないと主張する方もおられます。となると、唱和に心がこもらないでしょう。
- ⑤上命下服型でなく、自分たちの作ったものはより唱和に心がこもるでしょう。
- ⑥このために、全員が綱領を勉強することにもなれば、一石三鳥・四鳥です。

この目的はあくまでも、目標を唱和する事によって、各会員個人にロータリーがよりよく身につくためであります。

夫々のクラブの誇りを懸けて、全会員の英知を寄せ集めれば、夫々のクラブに適切な、夫々のクラブの特徴が滲み出た、しかも国際ロータリーの綱領を内容的にも十分にカバーした、良い文章を作っていただけると思っています。クラブの目標文を月1回全員で唱和すれば、ロータリーがより身につけて行くと考えている次第です。

「高齢化」が問題になるということは、言い換えればすでに長年にわたりロータリアンであり、ロータリーの中核をなす価値観を十分身につけておられる方が多いということです。しかし、「限りなき道ロータリー」です。2009-2010年度が少しでもより「ロータリーが身につく」年度となるべく、お互いに励まし合って歩めることを願っています。ご協力よろしくお願ひします。



国際ロータリー第2660地区
2009～2010年度ガバナー

大谷 透 (おおたに とおる)

生年月日 1935年7月7日

勤務先 大谷 透 内科

所在地 〒537-0025

大阪市東成区中道1-4-2-205

経 歴 1965年 大阪大学大学院（腫瘍生化学）終了
医学博士

1965年 米国テキサス・ベイラー大学研究員

1968年 大阪府立成人病センター消化器内科医員

1987年 同 消化器集団検診科部長

1993年 同 消化器内科部長

1997年 同 附属高等看護学院長兼務

2004年 大谷透内科開設 現在に至る

職業分類 医師

ロータリー歴

1977年2月16日 大阪西南RC入会

1980～1981年度 雑誌委員長

1988～1989年度 職業奉仕委員長

1991～1992年度 世界社会奉仕委員長

1996～1997年度 国際奉仕委員長

1998～1999年度 米山奨学委員長

1999～2000年度 規定委員長

2001～2002年度 副会長・クラブ奉仕委員長

2003～2004年度 会長

2004～2005年度 世界社会奉仕委員長

2005～2006年度 国際奉仕委員長

2006～2007年度 米山奨学委員長

R I 第2660地区

1997～2002年度 財団法人道的援助委員会委員長

1998～2002年度 ロータリー財団委員会委員

2002～2004年度 財団法人道的補助金委員会委員

2005～2007年度 国際大会記念事業委員会委員

その他

マルチプル・ポールハリス・フェロー

ベネファクター

米山功労者（マルチプル）